

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/9/9作成 (株)新出光

【概況】<積極的な金融引き締め~中国感染拡大>

●2日、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は週明け5日に会合を開き、10月以降の生産方針について協議されます。直近の原油価格下落を受け、OPEC盟主のサウジアラビアなどが減産の可能性に言及しており、この日は買い戻しが優勢となり相場は86.87ドルへ反発しました。また、イラン産石油の輸出再開観測が後退したことも強材料。米国務省報道担当官は前日、核合意再交渉でのイランの回答は「残念ながら非建設的だ」との見解を示し、両国の溝が依然として埋まっていないことが浮き彫りになってます。

●5日、NY市場 レーバーデー(労働者の日)のため休場。

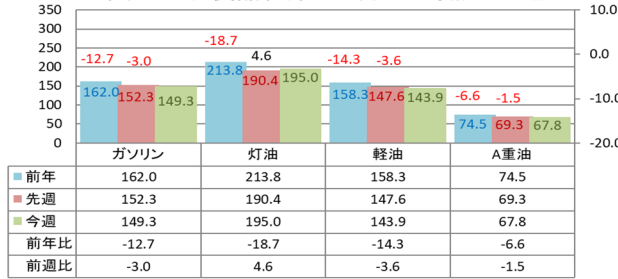
●6日、OPECプラスは5日、オンラインで閣僚級会合を開き、最近の原油価格の下落を背景に10月に日量10万バレルの減産に踏み切ることで合意しました。これを受けて、需給の引き締め観測が広がり、原油が買われましたが、一方、米サプライ管理協会(ISM)がこの日発表した8月のサービス業購買担当者景況指数(PMI)が市場予想を上回ったことで米国が積極的な利上げを続けやすくなるとの見方が拡大し、世界的な景気減速懸念が高まりました。また、中国での新型コロナウイルスの感染再拡大を背景にエネルギー需要の先行きにも警戒感が広がり相場は86.88ドルで終わりました。

●7日、米欧の主要中銀がインフレ抑制のために積極的な金融引き締め姿勢を維持し、利上げが長期化すれば、世界的な景気減速を招くとの懸念が引き続き投資家心理を圧迫しています。また、中国の新型コロナウイルス感染の再拡大を背景とした行動制限などが経済に打撃を与えたことが示され、エネルギー需要の先行き不安に拍車を掛け相場は81.94ドルへ急落しました。

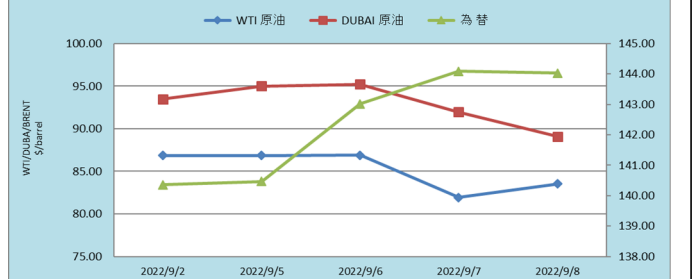
●8日、新型コロナウイルスが再流行している中国で、ロックダウン(都市封鎖)に踏み切る都市が増加。5日時点の米報道によると、3億人以上が規制の対象となっています。これがエネルギー需要の鈍化につながるなどの警戒感を強め、相場は早朝に一時81.2ドルと、今年1月中旬以来約8カ月ぶりの安値を更新しましたが、対ウクライナ戦争の資金調達を阻むため、欧州連合(EU)がロシア産天然ガスに価格上限を設ける方策を検討すると表明したことを受け、プーチン大統領がガス供給停止を警告したことが買い材料視され相場は83.54ドルへ反発しました。

9月9日 16:30現在 WTI原油 83.61ドル 為替 1ドル 144.81円

国内石油製品在庫 9月3日時点



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



次回元売変動予測

品名	9/15~	元売変動予測
ガソリン	→	-1.4~-1.9
灯油	→	-1.4~-1.9
軽油	→	-1.4~-1.9
A重油	→	-1.4~-1.9
LSA	→	-1.4~-1.9

【製品卸価格】<9月3週目は、元売月間玉と市況連動玉の販売攻勢強まる>

【今週】今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-1.5円」、補助金は、「-36.5円」、都合「-0.4円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの5日時点の小売価格平均は169.6円となっております。今週は、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者が優勢となっております。

【9月10日以降】 次回の元売り改定は、原油コストは「-3.0~-3.5円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「-34.9円」の見込みで、都合「-1.4~-1.9円」の値下げ改定の予測となっています。9月5日のOPECプラスの会合で、10月より日量10万バレルの減産で合意しましたが、市場への影響は限定的で、むしろ欧米によるインフレ抑制のための金利引き上げによる石油需要の後退懸念により原油は、下落しました。原油価格の下落により次回の値下げ改定も見えてきており、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者は、補助金が減額される14日までに枠を消化しようと販売を強化しています。製油所稼働率は、複数の製油所で、FCC装置等のトラブルが発生し稼働率が低下している中、9/4からは、民族系大手元売りの北海道製油所でトッパーが停止しており今冬の灯油については、非常にタイトな状況になると思われます。

※原油コスト「-3.0~-3.5円」
 ※激変緩和補助金「-34.9円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」>

サステオの製造施設であるユーグレナ社は神奈川県横浜市鶴見区で、この土地はAGCの関連施設の一部で、神奈川県や横浜市などからの助成等を受け、総額58億円を投じて2018年10月に竣工されました。サステオの原料は大きく2つあり1つは、ユーグレナが沖縄県石垣島で生産している、微細藻類のミドリムシ由来の油脂(ミドリムシワックス)です。ミドリムシは100種類以上あり、ビタミンやカルシウムを含むものなどさまざまな特徴を持つものがあるが、今回の実証では油脂を含むミドリムシを使っています。もう1つは、家庭や店舗などから出た天ぷら油などの廃食用油です。この中には、未使用で賞味限切れした油なども一部含まれます。精製工程は4段階で、第1段階は「原料前処理」で、油脂を加水分解し、リンや金属分といった不純物を除去する。第2段階は「水熱処理」加水分解した油脂を、シクロパラフィンや芳香族化合物を含む低分子量の燃料に適した合成油へと変換する。第3段階は「水素化」で、酸素原子・2重結合を除去して、純粋な液体炭化水素製品へ転換する工程。第4段階は「蒸留」で、水素化された製品を、沸点に基づきナフサ、ASTM D7566 Annex6に適合したジェット燃料、JIS K2204に適合した軽油成分へ精製する工程です。次世代バイオ燃料は炭化水素燃料であり、ガソリンやディーゼル燃料と分子構造が同じである。サステオはJIS(日本工業規格)で軽油と同じ扱いになっています。現在では既存ディーゼル燃料とサステオとの混合燃料が現実的で、混合燃料の量産効果によって、コストを抑制する方向で事業を進めるとの事です。

【出典】

① https://article.auone.jp/detail/1/3/6/7/6_r_20220803_1659485261868007